

# 求める会ニュー入 No. 996

## 2月全体会報告

2月16日(水) 10:30~12:30

### 【検討事項】

#### 1. 会の今後について

飛田副代表より、今後の日程、確認事項について、説明がありました。

- ・3月の全体会は3月16日(水)に開催。総会資料(活動報告、会計報告)の検討。
- ・総会は4月27日(水)10時30分~12時、神戸学生青年センターにて開催。
- ・今後必要な金額を差し引いた残金は380万円ほどだが、一定額を「あしの会」へ、残りを神戸学生青年センターに寄付、総会の承認を得て最終的に決定。

#### 2. 「あしの会」への移行について

- ・会計上、求める会の配送は2月まで、3月からあしの会の配送に切り替わる。
  - ・物品の値段は、ワンシーズン(1年間)は生産者価格に上乘せ(手数料)20%+税、となる。それ以降は少しずつ値上げしたいとの意向。
  - ・配送協力金(月15,000円未満は1回330円)、月会費(月330円)が必要。
- 求める会の値段が安すぎたので、それとは比べられないが、今後物品の値段が上がり、配送費や会費の負担があると、「あしの会」をやめる人が出てくるのではないかと、という意見が出た。

・「求める会」終了後のアフターケアについて 求める会終了後も、2023年3月までの1年間、岩本さん、東山さんが相談ごとに対応していただきます。

※移行後の物品の取り扱い、経費についての詳しい内容を記したプリントが、2月中

に各会員に配布されます。

### 【報告事項】

#### ① 活動部各担当から

【生産者担当】\*野菜：気温があがれば一気にとう立ちが起こってくる。大根、ニンジン、白菜なども減ってきている。2月いっぱいは今までと変わらず出荷。

- ・あしの会に移行後、橋本さんの野菜の量、金額など、まだ詰めができていない。3月の野菜の配送を見て、会員の意見を聞きたい。

\*卵：新しい雛はまだ2~3個しか産まないが、3月になれば産み始める。

- ・廃鶏50羽分を廃棄処分するというので、急遽、求める会で購入することになった。500g入りのミンチ肉を50袋、3月の部会、全体会で販売する。鶏ガラも2羽分ずつ、希望者に販売する。

\*牛乳：「あしの会」はヨーグルト(小)は取り扱わない。

\*牛肉：「あしの会」カレンダーのC週に配送。

\*豚肉：「あしの会」カレンダーのA週に配送。

\*果物：晩柑の1、2回目とはるみは求める会が引き落とし、以後は「あしの会」の引き落としになる。

【会員担当】2月会員は178名

【学習研究担当】「福島の子どもに安全な食べ物を送る会」は昨年、野菜、ミカン、米、リンゴを送った。残金2万余円で山口さんの晩柑を送り、残りは「いわきの初期被曝を追及するママの会」にカンパする。

◎実務部から 3月いっぱい自動引き落

としの口座を閉じます。会員の皆さんは残高の確認をお願いします。残高が足りない場合、各自の振り込みになります。

### お知らせ

- 3月全体会 3月16日(水) 10:30~12:00。最後の全体会です。多くの皆さんの

#### 食料環境セミナー報告

2月19日(土) 午後1:30~3:00  
「排除の論理から共存の論理へ  
—持続可能な農業を求めて」  
福津農園 松澤 政満 さん

松澤さんは37歳で脱サラ、愛知県新城市の標高500mの山の中腹で、37年間有機農業をされている。築500年の母屋は住み心地がいいとのこと。人間がちょっと手を加えるだけで、フキノトウ、ワラビなどの山野草がたくさん生えてくれて、朝市へ出せば完売、山野草の天ぷら会をやれば50~70人が集まる、という話から始まった。

松澤さんは、農業とは太陽光エネルギーを作物バイオマス(食料)に転換し、人類の利用可能なエネルギーを獲得する産業と捉えて、その本質から外れない農業をしようと、共存の論理に基づく持続可能な農業を実践されている。

具体的には、不耕起直播の野菜栽培、多品目少量生産、有畜複合、堆肥・糞尿の活用で肥料代ゼロ、無駄な草刈りはせず、トラクターは使わないなど、労力・金・外部資材の投入は低く抑える。環境に負荷をかけず、野草、微生物とも共存する生物多様性に配慮、地産地消、有機朝市で消費者、地域とつながる——など。

草刈りをしないので土がむき出しにならず、過剰な窒素がない、冬草の中にカボチャの種を蒔くと、草が光を遮り夏草が生えない、草が養分になり霜が降りる頃までカボチャの収穫ができる。

木を切って山積みしておく、シロアリが肥沃な土にしてくれるし、堆肥はひっくり返さないのがカブトムシの幼虫

参加をお願いします。

- 毎月第3土曜日の食料環境セミナーにも参加をお願いします。毎週土曜日には「ろっこうおーがにつく市」も開催。早めに出かけて市を覗いてみてください。

がいっぱい、田んぼには蛍が乱舞し、9種類のカエルの合唱が聞こえる。このような農業は人間の生活、社会を豊かにしてくれる、つまり人類の福祉に貢献する。

それに対して現代の農業は、排除の論理に基づく工業的近代化農業。大量のエネルギー、資材、農薬、化学肥料を投入し、その結果、エネルギー収支の悪化、自然界の循環システムの破壊、資源の無駄遣い、環境汚染、薬害・がん・アレルギーなどの病気、地球温暖化、格差の拡大などを生んでいる。

「食の安全」は農業の原則で、当たり前のことなのに、有機JASでさえ付加価値として、食と農の危機を助長している。

農業のエネルギー収支(産出/投入比)を比べると、メキシコのトウモロコシ(有機農業)=12、焼き畑農業=10、ブッシュマンの採取生活=4(ぎりぎりの生活ができる)、USAのトウモロコシ=2~3、日本の水稻=0.4~1.1、ハウスキュウリ=0.02——という結果に。排除の論理に立った工業的近代化農業では、収量を増やそうとすれば、もっと多くのエネルギーと労力をつぎ込まなければいけない。

当日の資料に、松澤さん手描きの有機循環農業の全体を示した図があった。その図を見て、これはまさにアグロエコロジーそのものだと思った。

(亀井町G 今田 裕子)

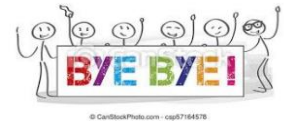
#### 次回食料環境セミナー

3月19日(土) 午後1:30~3:00  
「低温殺菌牛乳の現状と未来」  
丹波乳業 代表取締役  
吉田 拓洋 さん



～求める会を閉じるにあたって～

## 世話人のひとこと集



【副代表】飛田みえ子（鶴甲団地 G） 自宅の本棚には震災の年（1995年）に事務局員になった時のメモのノート No.1 から現在までの20冊、ニュース合本22冊、「ゆうきすと」12冊、プリント類のファイルが28冊。求める会関係のものは例外的に収集してきました。いまそれをちょっと手に取ってみると懐かしさがこみ上げます。いよいよ終わりかと思うと、やはり寂しいですね！

【副代表・実務部】岩本美樹子（松浜 G） 実務部を担当していました。申込みの入力ミス、発注ミス、引き落としデータの作成ミス、申込み用紙の出し遅れなどなど、いっぱいミスをしました。しかし、皆様の優しいお気持ちで無事、会の終了までやってこられました。本当にありがとうございました。感謝いたします。これからはスムーズにあしの会に移行できることを祈っています。

【実務部】◆福本志津子（本一 G） 2005年から個人請求で自動引き落としになりました。それにはソフトを使ってパソコン入力が必要になりましたが、60歳過ぎてからパソコンの使い方を習っていたのが役に立ちました。会計ソフトの使い方にも徐々に慣れていき、事務所に来ればおしゃべりしながらキーをたたいておりました。何とか無事に終えそうで安堵しているところです。楽しく有意義に過ごせました。ありがとうございました。

◆東山真紀子（松浜 G） 世話人の中では若い方だった私も70歳に手が届きそうになり、限界かなと思うこともしばしば。早く自由になりた～いと思っていたのですが、もう少しで終わりなんだと思うと寂しくなります。会を立ち上げられた方々には尊敬と感謝しかありません。閉じることにはなりましたが、残した功績は大きいのではないのでしょうか。世話人として活動できてたくさんのお話を学ばせていただきました。

【会計】吉川真喜子（青谷 G） 仕事を持っているため、他の人と日程を合わせなくてもいい、1人で動ける会計をさせてもらいました。求める会の人たちは、支払いが少々遅くなっても、数字に明るくない会計係に対

して、いつも待っていてくれました。常にそのことを感じていました。最後まで務めさせていただき、ありがとうございました。

【会員担当】◆明松しのぶ（都由乃町 G） 世話人としてのお付き合いが始まったのは、市有研との関係が始まったころでした。雪の日の牛肉パック詰め、子どもたちとのキャンプ、泊りがけの援農、立木トラストの札かけ、感謝祭など、今もはっきり記憶にあります。今日まで続けて運動にかかわることができたのは、私の人生の何にも代えがたい宝物となりました。求める会に感謝です。

◆岡部真理子（センター G） 定年退職後、何も分からずに生産者担当になり、後に会員担当になりました。生産者に会い、畑を見、配送トラックで会員さんのお宅を回り、「おいしいね」の味噌づくりのお手伝い、色々な方にお会いできて、楽しいばかりでしたが、ようやく最近、提携、有機農業、環境問題をもっと考えなくてはと思います。ほかの世話人さん達がどれほど熱意と時間をかけ続けて来られたかも。皆さまと知り合い、一緒に動くことができ、本当にいい時を過ごせました。感謝、感謝です。

◆岡 和美（西山町 G） 若いころに2年、最後に10年、六甲のセンターに月2～3回通いました。幸せな時間でした。その時々は一生涯懸命してきましたが、会員担当としては仕事できていません。申し訳なかったです。

【生産者担当】◆小浦節子（鶴甲団地 G） もう市島ライブピアに会合で行くことも帰り道丹波太郎でお買物することもなくなるんだと思うと、ほっとするような寂しいような……。丹波の自然は行くたびに新鮮な英気を与えてくれました。しかし昨今の自然は厳しくそんな中で頑張ってくださいっているすべての生産者に感謝しています。

◆村川純子（大久保 G） 36年間も事務局員をして、これと言って役には立っていませんが、センターに来るのは楽しかったです。今はなるべく有機のものを食べたくて、ちょっとこだわり過ぎていて、大変！でも、お

（4面に続く）

## 3月のカレンダー

3月9日(水) 部会  
3月16日(水) 全体会  
3月22日(火) 自動引き落とし日



## 3月全体会議題

1. あしの会への移行について
2. 総会資料の検討

## 求める会総会のお知らせ

日時：2022年4月27日(水)  
10:30~12:00



会場：神戸学生青年センターホール(2F)

求める会最後の総会です。活動報告や会計報告、残金の処理など審議議案の承認を頂くための事務的な会合です。

コロナ感染予防のため、食事・談話会などは行わず、生産者もお呼びしていません。

(3面から続く)

陰でこれと言って病気もしてないのでいいかな。みなさんとお別れするのはさみしいです。皆さん、元気で長生きしてください。お世話になりました。

### 【学習研究担当】◆六渡和香子(東仲ノ町G)

求める会とは会発足からのお付き合いです。でも、部会に参加するようになったのは、退職してからのこの数年です。その時は残念ながら会の終活が見えていました。部員としての活動期間はわずかですが、この47年で学び、活動できたことは私の誇りです。

◆池田真知子(松並G) 部員として配送のトラックに添乗したり、地域集会にお話に行ったり、初めての場所を訪れる機会がありました。地域集会では道に迷ったり、うまく話せるかと緊張したり……。添乗は結構疲れましたが、普段の暮らしでは経験できないことを色々出来て楽しかったです。

【広報担当】◆花岡桂子(都由乃町G) ただ安心な食べ物を欲しいというだけで入会した私は、これほど皆様の手によって会が運営されていた事に気がつきませんでした。初めての仕事は市島の畑の様子を聞く事。次は野菜の苦情係。その後いろいろな係をさせて頂きました。圃場見学、援農、生産者訪問など楽しいものでした。求める会も終了となりますが、教えていただいた事や皆様への感謝を忘れないようにしたいと思っております。

◆今田裕子(亀井町G) 世話人になって、初めは義務感だけでセンターに通っていましたが、会員や生産者の皆さんと親しくお付き合いするうちに、多くの学びがありました。何より、地域集会、全体会、部会などで、会

員同士がとことん話し合う姿勢にとっても考えさせられました。多数決は簡単ですが、考えの違う人間同士が相手を尊重しつつ、最後まで話し合うことがどんなに大切か、今こそ必要なことだと感じています。

◆西 咸子(武庫之荘G) 入会当初からニュースを読むのが楽しみだったが、ニュースが出来上がるまでにこんなにたくさんの手間が掛かっていたなんて。事業部の仕事を知ってその煩雑さにまたまた驚く。長い間ニュースは楽しく読むだけ。物は当たり前のように受け取るだけ。今更ながら裏方の大変さを知って長く続けてこられた求める会の秘密はこのあたりかと思ったりしている。

◆小原恵子(加古川東G) 震災後の3年間は事業部、しばらく休んだ後、12年間は広報係をさせていただきました。その間、月2回の「求める会ニュース」が月1回発行に、紙面はB5からA4に大きく読みやすく変わり、コロナ禍の中では合併号や1枚だけのニュースが続きました。お世話になった求める会の運営の一部にかかわることができ、楽しく有意義な時間を過ごすことができました。

【事業部担当】◆尾園千代子(松浜G) 「地区代表、代わって」と岩本さんに言われ、1997年から部員に。お陰で、様々な催しに参加し、貴重な体験ができました。会で出会う人とのつながりも魅力でした。一会員なら、きっと会とは消極的な関わりで終わってたらうな。会が終了するのはとても残念で寂しい気持ちでいっぱいです。

◆藤原栄子(高砂G) 10余年のあいだ、失敗のつど学びを重ねて来ました。お世話になりありがとうございました。